

平成29年度 事業計画書
(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

公益財団法人 アサヒグループ芸術文化財団

平成 29 年度 事業計画書

美術・音楽・舞台芸術の 3 部門における個人及び芸術団体の優れた意義を有する芸術活動に対して助成支援を行うとともに、アサヒビル大山崎山荘美術館の運営の文化事業を行う。

助成にあたっては、助成対象者を絞り込み、1 件当たりの助成額を増やすことで、助成先への貢献度を高めていく。また、授与式を開催し、助成先同士および選考委員との交流、意見交換の場とする。さらに、選考委員および事務局による活動、公演の視察、評価を実施し、助成の効果を検証することも行う。こうした取り組みを進めることによって、助成先の満足度を高めると同時に、助成事業の価値を一層高め、財団の使命を達成していく。

アサヒビル大山崎山荘美術館の運営については、お客様満足・認知度を高め、魅力を発信するとともに、大規模修繕を関係先との連携を密にして、遂行する。

主たる事業の計画

1. 芸術文化活動への助成

1) 美術、音楽、舞台芸術への助成

平成 28 年度に開催した選考委員会の答申に従い、美術、音楽、舞台芸術の 3 部門、総計 474 件（28 度 503 件）の案件から、約 40 件に対し総額約 2,200 万円の助成を実施する計画。

2) 日本伝統工芸への助成

伝統工芸の技術の保存と活用、伝統文化向上に寄与する目的で開催されており、平成 20 年から助成をしている。29 年度 50 万円の助成を実施する計画。

2. アサヒビル大山崎山荘美術館の運営

次の施策を展開し、お客様満足・認知度を高め、魅力を発信する。

1) 企画展開催

大山崎山荘と親和性の高い次の企画を実施する。

会期	企画名
3.18～5.28	「生誕 150 周年記念 漱石と京都—花咲く大山崎山荘」
9.16～12.10	「有元利夫展（仮）」

12.16～30.3.11 「没後40年 濱田庄司展—山本爲三郎コレクションより（仮）」

※山荘を設計・建築した加賀正太郎は、山荘の命名を夏目漱石に依頼し、漱石は山荘の名前案（14案）を加賀に提案したが、加賀は提案された案ではなく、地名をとって大山崎山荘と命名した。

※有元利夫（1985年38才で早世した画家）は、静寂感のある美しい作風で今も多くの人々を魅了し続けており、作品は大山崎山荘が醸し出す莊厳さとマッチしている。

※アサヒビル初代社長山本爲三郎は、民藝運動を篤く支援したが、その盟友が陶芸家濱田庄司である。

2) 情報発信

アサヒグループ外に対しては、上記企画展を、手薄であった雑誌媒体を含めマスコミへ積極的に情報発信するとともに、従来にも増してアサヒ・ラボ・ガーデンと連携する等、戦略的広報活動を展開する。グループ内においても、ネット上のグループ掲示板や社内報を活用して美術館の魅力を発信する。

3) 大規模修繕

6～8月に大規模修繕（耐震補強工事、雨漏り・結露対応工事、トイレ給水増圧工事、展示ケース照明LED化）を実施する。設計・施工業者、アサヒグループ各社とも連携を密にし、工事が納期どおり完了するよう役割を果たしていく。

なお、昨年度まで助成していた「アサヒ・アート・フェスティバル」については、アサヒビル社の特別協賛終了に伴い、当財団としての助成は行わない。

主たる事業の予定

平成29年度(29年4月1日～30年3月31日)

年	月	日	項目	摘要
平成 29	3	18	大山崎山荘美術館企画展	「生誕150周年記念 漱石と京都—花咲く大山崎山荘」(～5月28日)
	4	10	平成29年度助成金授与式	
	6	1	大山崎山荘美術館大規模修繕	～8月31日
	6	1	理事会	・平成28年度事業報告、決算書類等承認の件
	6	16	定時評議員会	・平成28年度事業報告の報告、決算書類等承認の件
	9	16	大山崎山荘美術館企画展	「有元利夫展(仮)」(～12月10日)
	11	1	平成30年度助成公募開始	募集期間：～11月30日
	12	16	大山崎山荘美術館企画展	「没後40年 濱田庄司展—山本爲三郎コレクションより(仮)」(～3月11日)
30	1	下旬	芸術活動助成選考委員会	平成30年度芸術活動助成案件の選考(～2月)
	3	上旬	理事会	・平成30年度事業計画・収支予算の承認の件 ・芸術助成選考結果承認の件

以上